

議事概要記録

開催日時	平成 24 年 8 月 11 日 12:00～14:00	開催場所	成人病センター 4 階研究室
会議種別	平成 24 年度和臨技第 3 回理事会	議 長	竹中
		書 記	田中(規)
出席者	玉置 達紀、畑 忠良、竹中 正人、大石 博晃、田中 規仁、 木下 博之、田中 久晴、脇村 小津江、須賀 洋、栗林 伴有、 瀧谷 雅彦、瀧口 良重、今西 数彦、丸澤 佳子、 村田 正吾、勝山 浩樹 (16 名)		
欠席者	蓬台 克之	オブザーバー	
次 第	平成 24 年度第 3 回理事会		
議事概要	<p>報告事項 会長報告 事務局報告 学術部報告 経理部報告 各種委員会報告(公益事業活動、定款・渉外、精度管理、データ標準化、 会誌編集、ホームページ、会報、その他)</p> <p>連盟報告</p> <p>審議事項 経理部審議 精度管理委員会審議 ホームページ委員会審議 公益事業活動審議 事務局審議</p>		
決議事項 及び 継続事項	<p>冒頭に玉置会長より挨拶があった。</p> <p>会長動向報告(玉置会長)</p> <p>6 月 12 日(火) ビック愛 12F 会議室 1203</p> <p>第 17 回和歌山県病院協会学術大会企画運営委員会、懇談会及び懇親会 県から病院協会への補助金が減額、コ・メディカル団体が 6→8 団体に増えた ことから、各団体への補助金を 10→5 万に減額、次年度から。 コメディカルシンポジウム「充実したチーム医療を目指して」 担当団体：検査技師会、放射線技師会、栄養士会、理学療法士会、作業療法士 会 和臨技からはシンポジストに公立那賀病院の口広智一技師を推薦 病院協会学術大会はコ・メディカルとの共催扱いとし、点数更新や生害教育履 修申請が出来る様にする。</p> <p>知事との懇談会を 11 月 19 日(月)に行う。</p> <p>6 月 16 日(土) 大臨技事務所 平成 24 年度第 1 回日臨技関西支部幹事会、第 1 回近臨技理事会 (幹事会) 支部組織体制について、関西支部学会進捗状況報告。 (近臨技) 玉置が副会長に選出。2 年間で発展的に近臨技をなくし 1 本化する。 2016 年の全国学会に兵庫県が立候補したい。IFBLS 学会誘致について もしたい。</p> <p>7 月 15 日(日) 大臨技事務所 近臨技・支部幹事合同会議(支部長報告) 支部研修会の会計はすべて報告する。</p>		

支部研修会に年間 70 万円 (10 万×7 回) 支部学会で実施するチーム医療セミナーを申請する。

学術研究班を作る。

近畿支部に名称を変更する。(時間が必要)

7 月 19 日 (木) 和歌山県書道資料館

平成 24 年度和歌山県公衆衛生協議会理事会・総会出席。平成 23 年度事業、決算報告、平成 24 年度事業 (案)、予算 (案)、規約の改正について。

和歌山県公衆衛生学会 11 月末～12 月の平日に開催。

支部学会関連

○行動報告

5 月 29 日 (火) コガノイベイ

会場視察。玉置、竹中、井上、則藤、長島

6 月 17 日 (日) コガノイベイ

会場視察。中尾、久保、吉田、長島

6 月 20 日 (水) 京都グランビィア

日本臨床検査医会近畿支部、日本衛生検査所協会近畿支部との会議。

7 月 12 日 (木) コガノイベイ

会場視察。玉置、竹中、角田、松本、朝阪、長島、共立、

7 月 28 日 (土) 紀南病院

司会との打ち合わせ。玉置、竹中、中谷

○学術企画

(支部学会企画) 一般演題数 166 題、特別企画 56 題、日臨技企画 2 題、ランチョン・スイーツセミナー14 題 展示発表 29 社

(近臨技企画) チーム医療実践セミナー3 部門

(医会、衛生検査所協会) C P C, ラボ研究会、一般演題

事務局報告 (田中事務局)

第 1 回常務理事会

6 月 20 日～22 日 (メール会議)

監事・理事承認 6 月 26 日～29 日 (メール会議)

会員行動報告

5 月 26 日：和歌山県放射線技師会 60 周年記念式典 竹中副会長出席

5 月 24 日：田辺ロータリークラブ乳癌検診受診啓発活動例会卓話

紀南病院・石水弘子技師、同・加藤ひとみ技師派遣

6 月 24 日：ヒューマンアカデミー和歌山校、看護医療お仕事博 田中理事派遣

7 月 20 日：第 17 回和歌山県病院協会学術大会シンポジウム申込み

シンポジストに公立那賀病院・口広技師を推薦

各種委員会

5 月 19 日：公益活動の打ち合わせ

5 月 29 日：日臨技標準化・和歌山県基幹施設は変更なしを報告 (今西理事)

6 月 16 日：第 1 回精度管理委員会会議

6 月 28 日：学術研究班員の一部変更

7 月 13 日：会報原稿依頼 脇村理事

8 月 1 日：和臨技 HP リニューアル

事務局報告

6 月 2 日：済生会和歌山病院 7 階講堂にて和臨技オリエンテーション開催

6 月 22 日：風水害罹災状況の調査 (罹災者なし)

7 月 13 日：読売新聞広告掲載の受諾

- 7月31日：和歌山県医科大学医学振興助成金申込み
講演会等開催；第15回学術部合同研修会
県民啓発事業；第13回医療セミナーin 和歌山
- 7月31日：第14回和歌山県病院退会・第17回和歌山県病院協会学術大会への
協力要請
- 7月31日：平成24年度院内感染対策講習会受講者の推薦要請→労災山崎技師に
要請
- 7月末日：役員・各種委員・学術委員委嘱状発行、和臨技会員証発行
- 7月末日：平成24年度日本肝臓病学会市民公開講座への後援依頼
日本肝臓病学会市民公開講座 和歌山県世話人(医大第二内科 一瀬
教授)より

会員情報 (H24.08.10 現在)

日臨技会員 317名 (+4) 和臨技会員 25名 (合計 342名)

その他

平成24年度和歌山県公衆衛生協議会 会費納入の依頼 (3口 4,500円)

次回の理事会予定

第4回理事会 11月3日予定 (約款では3か月に一度の規定)

第5回理事会 2月23日

学術部報告 (木下学術部)

日臨技推進事業 (研究班活動) について、13事業開催採用済み。

精度管理 (コントロールサーベイ)

2月2日に日臨技主催管理者研修会 (安全管理・財務管理等の管理者向けの研
修会) があります。

経理部報告

今日現在の財務出納 (入金額・決算額・残高) の説明があった。緊縮と対応策
が必要。

各種委員会報告

公益事業活動報告 (畑副会長)

日臨技から要請の乳がん・HIV と、医療セミナーin わかやまが大きな3本柱の
計画報告。日臨技への企画書提出申請が指示された。日臨技要請事業は予算20
万以内の予算で、セミナーin わかやまは県立医大医学振興助成金の申請。HIV
は昨年の実績が非常に良く、県・和大学側から引き続き開催要請あり。8月20
日ごろに大学に会場視察する。

医療セミナーin わかやまについて (瀧口理事)

平成25年1月26日に県立医大病院で行う。3階検査室でABI、4階臨床講堂
で講演 (栄養士・医師2名予定)

HIV 啓発 (田中理事)

平成24年12月1日に和歌山大学でVCTを中心に、15人程度の30分1コマ
の啓発講演会 (手前講師養成も含めて) 行う

乳がん・ピンクリボン (須賀理事)

平成24年10月7日 田辺市本宮行政局 (講演会) 熊野本宮大社大鳥居 (ラ
イトアップ)、平成24年10月13日 紀三井寺本殿 (啓発コンサートとライ
トアップ)

ピンクリボン本宮開催分に対し、ライトアップ代 (5万: 寄付) について会長
より質問があった。→日臨技助成金に対し、収支を合わすように予算化されて

いるだけなので、担当者と内容（支出等を抑える）をつめ直す旨の回答であった。

定款・渉外（竹中副会長）

特に報告なし。

精度管理（今西理事）

8月10日に今年度の第25回和臨技サーベイ申し込みを締め切りました。若干の問い合わせがあった（申込案内書には病理細胞診と記載→病理のみと回答した。HBsAgは定量検査を実施→定性試験はなしと回答した）

FAX申込書に23年度表記と記載間違いがあった。訂正案内済み。

各研究班サーベイ担当から計画案と予算案が提出された。

データ標準化（今西理事）

7月に第1・第2基幹病院にデータ標準化の試料（血ガス・生化）が届けられ、14週間毎木曜日に測定・11月中旬終了、報告。8月中旬にCBCとHbA1cが到着・20日間連続測定。第1基幹病院に1次標準物質が送付・既に測定報告済み。

会誌編集（瀧谷理事）

会誌「臨衛技」の名称をどうするか提案あり。次回理事会までに考える。関西支部学会が終了後に臨衛技投稿の募集を開始する等の行動開始する旨の説明があった。

ホームページ（丸澤理事）

8月1日にリニューアルしました。内容は必要最低限のものを移行した。

会報（脇村理事）

通巻59号が9月行事予定表と共に配布。次号60号は年末から年始にかけて配布予定。原稿依頼：学術から一般で1題出あり。勉強会の開催記録や関西支部学会の様子が得られず情報が欲しい旨の願い出がありました。

〈以上報告事項〉

経理部からの審議

運営資金が全く足りない、助成金率が予算の4割を占める。上半期に入金を考えていたが、入金が未だに無く、予定すら分からない。よって運営費がまわらない。賛助会員の口数を増やす事も大切だが、会費の値上げ・サーベイの有料化の検討も必要との提案があった。

- 予算案より決算額が遥かに大きい事業が見受けられる。これは予算を組む人と事業を遂行する人の意識の違いと見受けられる。予算を組む時に、しっかりと意思疎通が必要でないかとの意見があった。
- 賛助会費や広告収入の落ち込みをフォロー出来ていないのも問題。昨年の加入実績がある企業には例年通りの賛助人会を積極的にお願ひする。
- 各事業の執行支出を出来るだけ削減を目指す。
- サーベイのあり方について再考
 - ◆ 試料は市販品を使わざるを得ない状況である。
 - ◆ 有料化も含めて、根本から見直す必要がある。
 - ◆ 有料化なら有料にした付加価値を付ける必要が有る。

- ◆医師会や県からの予算化はかなり厳しい。
- ◆生化学・血液は日臨技標準化事業が進んでいる。よって、第1第2基幹施設にデータを照会するだけで精度管理は保てるはず。輸血や感染症などの一部項目だけで事業継続していけば良いのではないか。統計学的にN数が多く必要な項目よりもむしろ、N数が少なくても必ず精度管理を行って行く事が必要な項目をきちんと洗い出し、継続していく事によって、県民に対しても精度管理事業についての説明がつくのではないか。ミニチュア版の日臨技サーベイは必要ないのではないか。
- ◆サーベイ試料と共通資材の見直しが求められた。
- 会費値上げについて
 - ◆2,000円アップで60万の増収になる。
 - ◆日臨技推進事業助成は何時まで継続するかわからない
 - ◆3,000は全国的にも安い
- 精度管理事業（事業見直し、あるいは有料化）と会費値上げを小委員会設置で検討し、次回理事会までに報告する。委員任命は会長一任で承認された。

学術部からの審議

- 学術部PCの1台がHDDクラッシュした。HDD換装必要のため修理保留中。今現在、2台のPCで回っているのが、事業遂行には影響は出ていないが、年数回、3台目が必要な時がある。HPメンテナンス用のPCが回せること、旧事務局PCも回せる事により、修理しない。
- 第15回学術部合同研修会が11月3日4日に南部国民宿舎にて開催。3日の教育講演講師に南和歌山医療センターの藤本医師を、4日の症例は化学血液・免疫血清より提示を、特別講演の講師にはJAJの鈴木先生よりコミュニケーション能力についてご講演頂きます。参加費について、いかなる参加形式にも関わらず1万円としたいと提案があった。参加形式記入をなしにする事（一律1万円）で承認された
- オーツから勉強会開催について相談された。趣旨との関係が大きい部門や研究班に一任し勉強会開催とする事で承認された。

HP委員会からの審議

- 今後掲載してはどうかと思われる事について提案があった
 - ◆学術部門からの各研究班の紹介・研修会勉強会レポートの掲載
 - ◆賛助会員のリンク→バナー（レンタルサーバ契約を確認する必要あり）
 - ◆HP検討委員会で検討する
 - ◆会報もぜひ載せて頂きたい

公益事業からの審議

- 報告事項時に承認されたので、特にありません。

事務局からの審議

- 公衆衛生学会への会費納入、3口4,500円を1口1,500円にする。
- 読売新聞の新聞広告にHPトップページのメッセージを使う。

〈以上審議事項〉

終了時に畑副会長より挨拶があった。

		氏名	田中規仁	提出	8月20日
--	--	----	------	----	-------

※ 諮問委員会で「報告書」が提出される場合、「委員会議事録」が別途作成添付される場合は添付資料で可